

婚姻届受理証明書

第9期OB 勿本 慎弥

私は舞浜という場所にこだわりを持っている。それは、20歳になって初めてディズニーという世界観を味わい、その感動を忘れることができなかったからである。私はこの5年で24回も舞浜に足を運んでいる。思い返してみれば、現役ゼミ生であり論文代表であった頃のこと。共著論文の巻頭言を「2011年11月吉日。夢と希望の街、舞浜より。」と書きたいと考えた。そこで、論文メンバーと共に舞浜に足を運びディズニーを楽しみ、巻頭言を書ききった。

◆2015年9月4日 ～プロポーズ～

こだわりの強さは、舞浜を私の人生の重要な場所に変えた。20歳の頃から、プロポーズをするのはディズニー公式ホテル以外にないと考えていた。予定どおり、決行日の半年前から計画を始め、ディズニーランドホテルの部屋を予約することができた。9月4日は彼女の誕生日であったため、当日までにホテルスタッフの方々と打ち合わせを幾度となく行った。計画の主な流れとしては、ディナーをルームサービスで済ませた後に、プロポーズをすることになっていた。しかし、事件は発生した。ディナーを済ませた直後、予定になかったホテルスタッフの方が私たちの部屋を訪れ、手には「プロポーズ記念おめでとうございます！」と書かれたシールを持っていた。私が彼女にサプライズを計画したつもりであったが、ディズニーランドホテルからサプライズを先にくらってしまった。今となっては笑い話であるが、その時にはものすごく汗をかいた記憶がある。



写真は、ディズニーランドホテルにて、まだサプライズをくらっていない段階（左側に著者）

◆2015年11月22日 ～婚姻届の提出～

日曜日になったばかりの夜中0時、私たちは私の社宅近くの区役所に婚姻届の提出に行った。本当に人が中にいるのか不安になるほどの静けさであった。役所の端にあるインターホンを押して1分、時間外受付の方が「今日は夜中に何組か覚悟していましたよ」という言葉と共にドアを開けてくれた。後ろを見ると同じようなことを考えた人たちが1組いた。提出した婚姻届に0時5分という印をつけてもらい、注意事項の説明を受けた。写真を撮ってほしい旨を伝えると、「テレビでやっているような記念にのこるような場所はここにはないけど、こんなところで良ければ」とスマートフォンを受け取ってくれた。慣れない手つきでカメラを長押し連写してくれた。夜の散歩の帰り道、隣に流れるうれし涙をふいた。

土日や祝日、夜間といった区役所の開庁時間外に婚姻届を提出した場合、不備ありのため受理不可という結果になり、希望日に入籍できない方々がかなりいると聞いた。確認のため数日経った後、婚姻届受理証明書を発行してもらうことを区役所の方におすすめされていた。このエッセイを書いているのは、その婚姻届受理証明書を横浜市南区役所から発行してもらった日である。私たちは希望どおり、「いい夫婦の日」に入籍できた。その証明書が手元にあるため、タイトルにしてみた。さて、婚姻届提出後、一緒に住むための新居を契約してきた。横浜市南区からさいたま市大宮区へ引越する日が近づいているのである。その準備に追われている中、会誌掲載のエッセイの執筆依頼がやってきたのである。日常のドタバタしているこの勢いを使ってエッセイを書き上げようと思い、引越用段ボールの上にパソコンを置いた。



写真は横浜市南区役所にて、三田にて小野先生に報告してから9時間後のこと（右側に著者）